

Design your own road

WHILLの月刊誌

WHILL MAGAZINE

2016 7・8
JUL.-AUG.

WHILL株式会社

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40 横浜市産学共同研究センター実験棟F区画
電話: 045-633-1471 FAX: 045-633-1472 メール: info@whill.jp





お客さまインタビュー

SHICHIRO YOSHIOKA

VOLUME. 10

吉岡七郎さん

本人も、そして家族も 元気になりました。

2015年5月からWHILLを利用されている吉岡様、
ご家族の方にお話を伺いました。

なぜWHILLを選んだのか？(家族談)

知り合いの勧めで、87歳の祖父に家族でプレゼントしました。新しい機械が好きなおじいちゃんの好みにも合うし、農作業などで坂道や悪路を走るときに安定していることや、運転が簡単な所も決め手でした。



WHILLを気に入っているところ(本人談)

4輪駆動で安定しているので、悪路など走っていても転倒する不安が少ない所や、坂道の下り坂でも、コントローラーを押した分しか進まないし、放すとしっかりとブレーキが効いてちゃんと止まってもらえるので近くの畑に行く時にも安心です。周りの人からもデザインが変わっているねとよく声をかけられますし、ひ孫たちが一緒に喜んで乗ってくれます。ちょっとでも外出する時にはいつも乗りますね。カゴは自分で自転車から取って付けてみました。



WHILLが来て大きく変わったこと(家族談)

田舎なので車がないと歩いて行ける距離には何もありませんが、3km程度離れた農協、診療所、買い物、床屋に自分の意思で行けるようになり、外出の機会が格段に増えました。それにつれて元気になってきましたようです。約10年前に免許を返して以来、外出時には同居している家族に車で乗せてもらわなければいけなかったのが気兼ねしていたのかもしれませんが、今では自分の意思で移動できる喜びを再び味わっているようです。おかげで外出時の出来事などを家族に話すことも増え、みんな元気になってきたように思えます。



WHILLの中の人

YUKINO HORIDE

誰もが利用できる パーソナルモビリティを 世界の多くの人に届けたい

堀出志野(ほりでゆきの)

WHILLで初めての女性社員*である堀出は東京大学、スタンフォード大学院でエンジニアリングを学び、現在は、海外市場開発部で各国の認証取得や、規格適合業務に携わる。(※現在女性社員は10名近くいます。)

なぜWHILLに入社したのか？

難病で歩けなくなった親類や、田舎で自動車免許を返納して移動に苦勞している祖父母をみて、短距離移動におけるモビリティの可能性に興味を持ち、学生時代はパーソナルモビリティの自動運転の研究を行っていました。大学院を卒業するとき友人が代表の杉江を紹介してくれて、ちょうどWHILLを立ち上げるということで、しばらくインターンとしてユーザー調査などを行っていました。その頃はまだ製品のコンセプトも固まっていなくて、ベビーカーのような形のものや、立ち乗りもできるものを考えたりしていました。その後は、経営コンサルティングの会社を経てホンダに勤めましたが、やはりパーソナルモビリティに携わりたいと思い、2015年にWHILLに帰ってきました。

WHILLでの仕事は？

WHILLを海外で販売するため、各国における認証の取得・申請などの業務を行っています。具体的な成果としては、2016年2月にアメリカのFDA*に医療機器として承認されたことが挙げられます。認可を得るため、製品の安全性を確認する厳しい試験を実施したり、膨大な量の資料を準備したりと、苦勞も多かったですが、自信を持ってアメリカのユーザーに安心・安全な製品

を届けられるよう努力しました。その結果ベンチャー企業としては異例のスピードでFDAの認可を取得することができ、嬉しく思っています。今はヨーロッパでの販売開始に向け準備を行っています。

この後の展望は？

誰もが利用できるパーソナルモビリティの開発をさらに進めて、それを世界中のもっと多くの方々に届けていけるようにしたいと思っています。



* (FDA: アメリカ食品医薬品局の略。アメリカ国内における食品及び医薬品の認可や取締りを行う政府機関。アメリカでは電動車椅子は医療機器にあたり、販売にはFDAの認可が必要となる。取得には多大な時間と費用がかかり、日本で開発された電動車椅子でFDAを取得しているものは稀。)